
わたししーらないと。

羽根羅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

わたししーらないって。

【Nコード】

N1756BA

【作者名】

羽根羅

【あらすじ】

でもきつとなんとかなるって信じてる。

「大統領、もう決着は見えたと」

「…そうだな」

『おい日本、そろそろ白旗をあげろ』

「武士道とはッ！ 死ぬことと見つけたリイ！ お国のために！
神風隊、ケエツ！」

「馬鹿め…国民まで犠牲にするとは」

「このままでは日本が文字通りの焦土のみです。なんとかしないと」

「しかし肝心の日本があれではな」

「国民に罪はありません！」

「我々の預かる国民にも罪はない。戦争で疲弊しているのが日本だけだと思っな」

「…」

「残念だが助けてやれる余力が無い」

『最後通告だ。日本、降参しろー』

1 (後書き)

二番煎じとか、この部分はおかしいとか。

「総書記、あいつら決着がついたみたいですよ」

「マジか。日本の負けか」

「はい。軍は全滅。無力な国民しか残っておりません」

「マジかあ。息子がデズニールランド行きたがつてんだけどなあ」

「総書記、お電話です」

「もしもし？ あのさー、聞いた？」

「あ、中国さんチース」

「あいつらが日本の領土とっちゃうとお、ウチらが困るわけ」

「そうっすね。マジ困っちゃいますよ」

「日本は言わもすがな…いわがなずも？ なんだけどお、お互い疲れてると思うわけ」

「そりゃあ、やっぱヤバいんじゃないっすか？」

「うん、だからあ、核ミサイル準備してた？」

「え？」

「核爆弾発射できるかって聞いたんだよハゲ」

「え？」

「えじゃねえよこのタコ。核弾頭こっそり用意しとけって言っただる海荒らされてえのか？ わざわざ荒らすような海ないけどコロすぞ」

「サアーセンでした！ 急いで準備します」

「頼むからあ、ね」

「ハイ」

「どうでした？」

「準備してねえってよ」

「おいおい……。大丈夫ですかね、間に合いそうですか？」

「時間的な問題はないけどお、やっぱり早い方が良いじゃん？」

「ですよー」

「仕事効率悪すぎ。あいつ何考えてんだろ。ウチ、うまくやるように説明してたんだけど」

「世襲したからですかねー」

「いつの話だよ」

『もしもし中国さん』

『あ？　なんだ豚』

『どこに撃つんですか？』

『日本の領土取られたくねーって話したばかりかだろうがよおこの夕

コ！　コ口されてーのか！』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1756ba/>

わたししーらないっと。

2012年1月5日10時49分発行